

第 4 回 高 校 生 東 南 ア ジ ア 小 論 文

コ ン テ ス ト

最 優 秀 賞

神 奈 川 県 立 金 沢 総 合 高 等 学 校 3 年

ク ム ウ オ ン 勢 名 さ ん

第4回最優秀賞作品
クムウォン 勢名さん(タイ部門)

地域において人々が自由に集い、くつろぎながら過ごせる空間。1989年、社会学者レイ・オルテンバーグはこれを「とびきり居心地のいい場所」と名付け、その重要性を唱えた。しかし、「居心地のいい場所」について地域住民が抱いている潜在的な思いや価値観を引き出し、具体的に現実にしていくことは簡単ではないとも述べている。記事にあるタイの蚊帳張りの屋台が「とびきり居心地のいい場所」として受け入れられたのは、二つの理由があると私は考える。それは、タイの自然条件を考慮した安心安全のデザインであることと、タイの人々にとって特別感を生み出すデザインであるということだ。

外務省のホームページによると、タイでは主に6～10月の雨季にかけて、蚊を媒介とする疾患の流行が見られ、バンコクなどの都市部でも発生している。特に緑や水辺の多いエリアでは、沢山の蚊に襲われることがある。私がタイ留学中に友人と屋台で食事をした際

第4回最優秀賞作品
クムウォン 勢名さん(タイ部門)

も、何か所も蚊に刺されたり、料理にハエが寄って来て追い払ったりと、せっかくの楽しい食事の時間を楽しめないことがよくあった。もちろん以前から蚊帳の存在は知っていたが、夜寝るときに使うものだとは勝手に思っていた。屋台と蚊帳の融合。この発想はタイに暮らす人だからこそ生み出すことのできたアイデアだと思う。虫刺されを防ぎ、料理にもハエを寄せ付けず、安全に安心して食事やおしゃべりを楽しむことができる「居心地のいい場所」となっている。

それだけではない。この屋台には「仕切り」という特別感がある。蚊帳があることによって、外にいなながらも個室のように仕切られた空間を味わうことができる。自分たちだけのスペースにいと、周囲の世界から少し距離を置くことができ、自然とリラックスできる。写真では二組の客が近くに座っているが、それぞれ別の世界観で仲間との時間を共有し、楽しんでいるように見える。また、外なのに仕

第4回最優秀賞作品
クムウォン 勢名さん(タイ部門)

切りがあるという特別感の高まる演出は、初めて来た人ならばきっと誰かに自慢したくなるだろう。タイでもSNSは幅広い年代に浸透している。「素敵な場所での素敵な体験」がシェアされることで、この屋台はますます人気が出るに違いない。

私はこの写真に出会い、新しいものをデザインしたり売ったりすることに対して考えが変わった。どのようなものや場所が「いいもの」と感じるかは、実際にそれを使う人にしか分からない。人々に受け入れられるためには、その地域の文化や価値観等の背景に根差したものであることが重要だ。そして自分がデザインしたものを、多くの人に気づいてもらえるような仕掛けやコミュニケーションツールも大切だということが分かった。次にタイに行くときは、タイの大切な食文化である屋台の新しいスタイルを楽しむ旅をしたい。そして、こんなに素敵で居心地のいい場所があるのだということを発信していきたい。

第4回最優秀賞作品
クムウォン 勢名さん(タイ部門)

参 考 資 料 :

書 籍

レイ・オルテンバーグ 著

タイトル : 「サードプレイスーコミュニティの
核になる『とびきり居心地のいい場所』」

出版社 : ダ・ポプレス

ホームページ

世界の医療事情 タイ 外務省

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/asia/thailand.html>